

「一致の基礎」(その4「主はひとり」) エペソ4：4-6

堀田修一 19・12・15

I 教会の一体性について、引き続き語られる。

1. 教会は究極的には、神聖な三位一体の神の御業。本日は、主＝御子なる神の事、：6では父なる神の事が語られる。御父は御子を遣わし、御子は御父の栄光を現わされた。御父と御子は御霊を遣わし、御霊は、御子の栄光を現わされる。

2. 主イエス御自身が教会のかしらである。主ではなく、教会のある人が、かしら、支配者（聞く耳、謙遜がない）になろうとする時、教会の一致は壊れる。※証し。お互い、聞く耳と謙遜と仕える心を祈り求め共に主の教会を建て上げよう！「神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」エペソ1：22, 23。この同じ唯一の主を信じる時、教会に一致が生まれる。主は、一致に導かれ、一致が常に生み出される。

3. 同じ主を信じる為に、主について教えている聖書の御言葉を良く読み味わう事が重要。御言葉を大切にしない時、「主」という発音は同じでも、違う神観、異端となる。聖書が教える主のご性質をしっかりと理解したい。真理の聖書が与えられている恵みを感謝したい。

II 「主はひとり」。

一人の同じ主から信仰の目を離さない時、教会の一致を保つ事ができる。

1. 「万物は御子によって造られ、御子のために造られました。御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています」コロサイ1：16, 17

2. 神の偉大な御子の受肉（偉大な神が、へりくだり、人々の身代わりに死ぬ為に人間とされた＝クリスマス）は、歴史上、他の類を見ない出来事。この事実は、非常に驚くべき真理であり、私達の理解を越えている。これが、私達の信仰の本質。「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず（神と等しくあることを握りしめておきたい、しがみついていたとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿）（ピリピ2：6、7）を取られた方。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」ヨハネ1：14。主は、唯一の方。神であり、私達の救いの為に人となられたお方。一人格に2つの本質（神性と人性）を持つ方。キリスト教は、主との人格的な交わりであり、人格を持たれる主を深く知る事であり、この方によって与えられる交わりを持つ事である。この方が唯一なので、その関係も一つ。一人の主がおられる故、この方に属し、この方と交わりを持っている者にはみな、本質的に一致がある。教会に起こる問題の多くは、かしらである主を忘れてしまう事が原因。私達は弱く、誤りに陥り易く、主ではなく人につき易い。私達は、この主を見失い、この方以外のものに支配され、「ただ一人の主」である方と私達の間、何ものかを割り込ませてしまい易い。いつも主と深く交わり、主を中心に交わり一致を保ちたい。

Ⅲ 私達の間には主がおられる。

「わたしが彼らの神、主であり、彼らのただ中に住む」出エジプト記29：46。

1. イエスは…言われた。

①「異邦人たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています」マタイ20：25＝世の支配者達は、人々に横柄に振る舞い、人々に権力を振るう、職権を乱用する、権力を欲しいままにする。アダムとエバ、人間の墮落の結果＝人格的な「愛し合う、仕え合う関係」から「支配し合う関係」に変わった（創世記3：16）。夫と妻、親と子、兄弟姉妹、教師と生徒、監督と選手、政治家と国民、社長と部下、弟子達と私達の心にも支配の心が！支配される心も。※忖度：事実を隠す自己保身。神はすべてを見ておられる。誰も神をごまかせない。世の終わりの最後の審判で、すべてが正しく裁かれる。裁きは神に任せ、間に合ううちに、自分自身が悔い改めたい。

②「あなたがたの間では、そうであってはなりません」：26。主が間におられる主の教会では、そうであってはならない。「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい」：26。皆を支配する者ではなく、互いに仕える（互いに聞き合い、協力しつつ主の教会を建て上げる）者となる。※支配・人を利用⇔愛・人に仕える。神と人々の為に自分をういていただく。主を愛し、主の教会を愛して、仕える心で、主の恵みへの感謝の心で奉仕を「させていただく」⇔奉仕を「してやっている」の心ではなく。※指導者になる事が否定はされていない。神の喜ばれる指導者は、仕える指導者、サーバントリーダー。人の助言に聞く耳を持ち、且つ、祈りつつ自分で最終決断をし、決断の結果の責任を他人に押し付けず、自分で負う。失敗からも謙遜に学び、次に生かす。「神は…へりくだった者には恵みを与える」

③「人の子（主キリスト）が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人（私達）のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために（十字架で）来た（クリスマス）のと、同じようにしなさい」：28。いつも主キリストのことを思い、信仰の目で見つめたい。私達の間におられるイエス様なら、ここでどうされるだろうか？主は、仕えられるためではなく、かえって仕える為に来られた。多くの人々の為、私達の罪の為、贖いの代価（永遠の滅びから買い戻す為に支払われた代価＝主の罪なき十字架の血、命）として、ご自分の命を十字架の上で与えて下さった。その愛する主が「皆に仕える者になりなさい」と語り掛けておられる。主が言われる「仕える者」とは、人を自分の力で支配しない人。聞く耳を持って、神の御心を求める人。神の教会を愛して、会堂を掃除し、人々を愛をもって迎える人。主が言われる「仕える人」とは、神の前に正しい事に従う人である。神はすべてを見ておられ、神の時に、正しく裁き、報われる。まず、自分が悔い改める！

2. 主イエス様の素晴らしさ＝主は、神であられるのに人となられたが、神でもあられた。それ故、多くの奇蹟を行われた。当時権力を持ち支配していたローマの圧政からユダヤ人を救出する力を持っておられた。弟子達も民衆も、それを期待していた。しかし、主は、世的に人気のあるヒーローとしての救い主には、あえてならなかった。もし、政治的な救世主になっておられたら、すべての人の心の罪の贖い、真の救いを完成することが出来なかった。それ故に、主は、私達人間の真の救いの為に、世的には人気のない、馬鹿にさえされるしもべの仕える道、辛く苦しい十字架の道を自ら選んで下さった！ここに、主の真の素晴らしさがある。その結果、この約2千年間、世界中の何億という人々が真の救いをいただいている。この謙遜な主を信じ、主を中心に交わる人々は、御霊の一致を保つ事ができる！